

秋田県の医療体制の現実

9月3日、東京都の帝京病院で多剤耐性菌アシネトバクター・バウマニによる院内感染が発覚し、46人もの感染者を出し、すでに9人が死亡というニュースに耳を疑いました。国が指定した「特定機能病院」であるにもかかわらず、昨年8月から毎月のように患者が出ていたとのこと、医療機関への信頼度を失うニュースです。

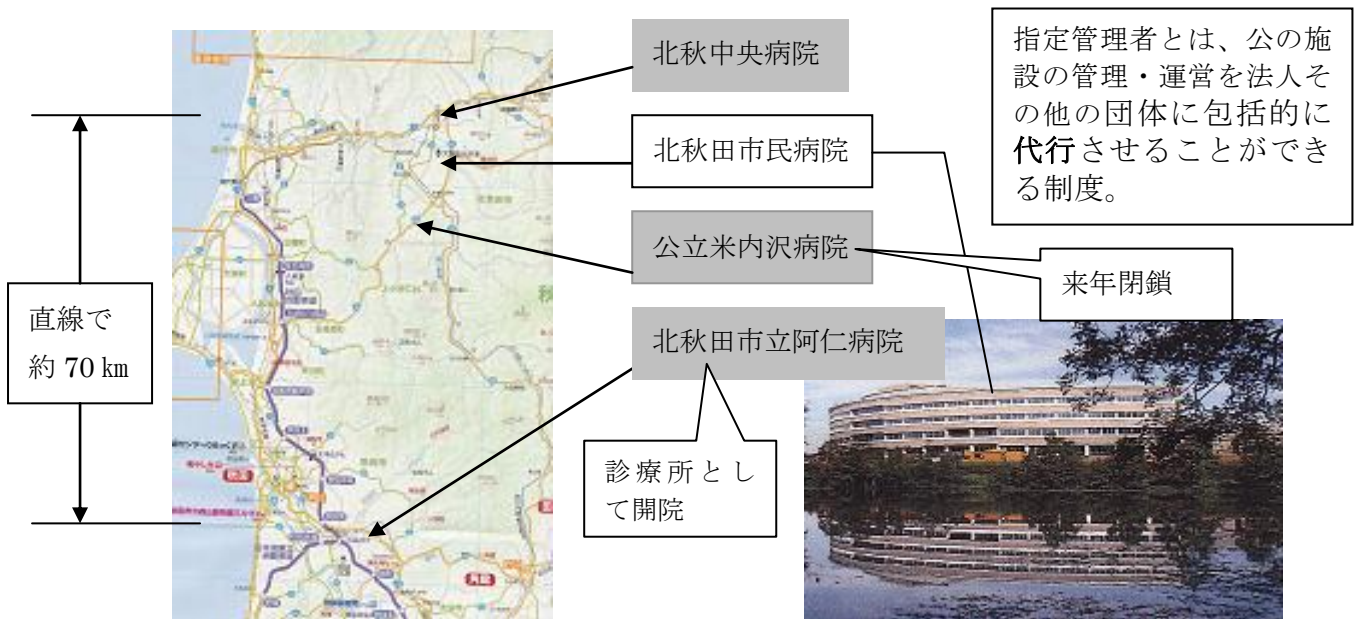
多剤耐性菌アシネトバクター・バウマニとは、すでに2008年11月、「薬剤耐性の強力な致死性細菌が医療施設で広がりつつある」とギリシャの生物医学研究機関が警告を発しています。アメリカでは、死亡率が3割～5割という報告もあります。

このようなニュースが流れると、自分が掛かっている医療機関あるいは、近隣の医療機関はどうか、関心が持たれます。

昨今話題になっているのが、**医師、看護師不足**です。千葉県でも病床数約400床、診療科16を擁して地域の拠点病院の役割を担ってきた銚子市立総合病院が、医師不足や経営悪化等を原因として、平成20年9月に突然休院に追い込まれました。2009年11月「千葉県地域医療再生計画」において「医療崩壊で有名になった千葉県」から「地域医療再生基金で地域の医療再生が実現した千葉県へ」を目指しています。

8月18・19日に青森県視察に際し、TVにて医師・看護師不足で紹介された「北秋田市民病院」を訪問し、秋田県庁で「医療体制の現実について」伺いました。

北秋田市民病院とは、近隣の北秋中央病院、公立米内沢病院、北秋田市立阿仁病院の3病院の機能を再編統合し、秋田県厚生農業共同組合連合会を指定管理者として2010年4月に開院しました。



大きな公園に隣接し、環境は良いですが、郊外なので、通院には不便そうです。また、薬局も敷地の外でかなりの距離があり、利用者のためには工夫が必要と思いました。



2・3階（診療科と一部病棟）



個室病棟で話し
を聞く川本さん



3・4階（病棟）



手術室 4 と眼科手術室 1
手術は麻酔医師が来る日に
合わせて週 2 回実施

病棟内の談話室で説
明を聞く川本さん



(談話室からの景色)



診療科：21科中10科診療
病床数：320床中177床稼動
ICU：4床あるが、重症室としてLCU機能していない
その他：ヘリポート隣接
問題点：アクセス（交通弱者は利用しにくい）
院外処方箋のアクセス（広い敷地を出て道路の反対側）

【秋田県の対策事業】

《医師確保総合対策事業について》一例

必要な医師数を確保し、医療水準の維持・向上を図るため、県、医療機関、関係団体、教育機関などが一体になって、総合的な医療確保対策を実施している。

1、地域医療従事医師修学資金等貸付事業

- ・ 県内の公的医療機関等に医師として勤務しようとする医学生、大学院生及び研修生に対し、修学・研修資金を貸与。
- ・ 一定期間、県内の公的医療機関等に勤務すれば返還免除など

2、総合地域医療推進学講座設置事業

- ・ 秋田大学に設置している寄附講座において、早期に地域医療を担う養成と医師不足などの解消に向けた研究を行う。

設置期間：2008年～20012年

(例) 中高校生に対する講演

2008年～医学部進学を増やす対策として「高校生パワーアップ事業」「病院一日体験」を実施

《看護職員確保対策事業》一例

- 1、養力強化事業（看護師等養成所運営費補助金・学生に対する修学金貸与）
- 2、離職防止・職業環境整備（病院内保育所支援事業ほか）
- 3、就業促進（求人情報の提供・就業相談・潜在看護師職場復帰の支援など）
- 4、資質の向上

医師の研修医制度が2004年に改正されてから秋田県だけでなく、地方の医師不足が深刻化しているようです。研修医制度は様々な問題があり、医師を目指すものにとっては劣悪なものであったと思います。しかし、1部を改正することによって影響を受ける関連するもの全てを検証し改善しなければ、片手落ちの改正になって、新たな問題を生み出す基になると思います。



2010年9月7日 文責：しむら